

第 7 回 災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2017/6/28)

テーマ：「東日本大震災から学ぶ生存モデル ～津波遺体のメッセージと行方不明の実態～」
場所：東北大学医学部（宮城県仙台市）

2017年6月28日(水)に東北大学医学部6号館1階カンファレンス室にて、第7回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナー（主催：災害科学国際研究所 災害と健康ユニット）が開催されました。今回は東北大学災害科学国際研究所所長 災害リスク研究部門津波工学研究分野の今村文彦教授が「東日本大震災から学ぶ生存モデル～津波遺体のメッセージと行方不明の実態～」と題して講演を行いました。

津波工学の第一人者である今村教授は、東日本大震災時の津波再現シミュレーション動画や波動エネルギーを示す画像などを用いながら被害の実態、押し波、引き波それぞれの強さ、恐ろしさを初学者にも分かりやすく解説しました。また、津波によるご遺体を検案した2名の医師の手記を紹介しながら、津波からの避難時の心構え、迅速な避難の重要性について説明し、津波から生き残った私達のご遺体の示す真実から様々なことを学ばなければならないことを力強く述べました。講演の終盤には、スーパーコンピュータ「京」を用いた南海トラフ地震津波のシミュレーションモデルを紹介し、南海トラフ地震後に高知市に押し寄せる津波は地盤低下も相まって3日間ほど引かないこと、津波からの垂直避難後の問題点として高層建物上に避難した多数住民の救出の困難さ、非常用物資の屋上準備の大切さなどについて解説し、その後、参加者も交えた活発な討議がくり広げられました。

次回、第8回災害科学国際研究所「災害と健康」学際研究推進セミナーは8月30日(水)に、東北大学災害科学国際研究所 地域・都市再生研究部門 地域安全工学研究分野の寺田賢二郎教授による講演を予定しています。



身振り手振りを加え説明する今村文彦教授



会場の様子